

東京女子大学 現代文化研究科 現代文化専攻

「修士論文作成の手引き」

2010 年度

I. 修士論文提出までの標準スケジュール

(年度末修了の場合)

修士1年目	
4月	研究主題・指導教員及び副指導教員決定、指導教員による履修指導
5月	研究計画書提出 (指導教員に提出、指導教員より専攻主任に提出・専攻会議で報告)
1月末	修士論文テーマ決定
修士2年目	
4月	論文提出申請、指導教員による履修指導
4月～5月	修士論文計画書提出 (指導教員に提出、指導教員より専攻主任に提出・専攻会議で報告)
<u>7月～11月</u>	中間報告または中間発表 (各分野で時期を決定)
10月	論文題目提出
1月	修士論文提出
2月	最終試験 (公開口頭発表)

* 中間報告または中間発表は、専攻および各専門分野の定めるところによる。

詳しい日程は掲示を参照のこと。

II. 「修士論文作成」まで

1. 授業科目の履修等について

現代文化研究科には、現代文化基礎論、コミュニケーション論、地域文化論、言語文化論の4研究分野があり、学生はいずれかの分野に所属し、指導教員の指導を受け、学際的な視野に立って研究を行います。尚、指導教員の外に、近接領域の中から副指導教員を決めます。

現代文化基礎論分野

現代文化基礎論の分野では、国際関係学、文化人類学、女性学、社会言語学などの研究分野をカバーしています。

本領域に関わる教員を指導教員として選択した院生には、指導教員の演習と講義を中心に学習しながら、他研究分野の演習や講義も履修することを勧めます。

大学院では、研究テーマの決定や履修・研究の計画などに関しては、各院生の自主性が求められます。指導教員は、院生の決めたテーマや研究計画に応じて指導を行います。

この分野では、研究テーマや分析の方法にかなりの幅がありますが、下記の各点を留意しながら科目を適切に組み合わせながら学ぶことになります。

- 1) 自分の専攻する専門領域の歴史、理論的基礎に関する学習
- 2) 自分が関心をもつテーマに関する学習
- 3) 自分の専攻と近接する分野の学習

1年次には理論と方法論の講義科目を中心に、2年次には指導教員の演習を履修しながら修士論文を作成します。

コミュニケーション研究分野

コミュニケーション研究分野では、心理、社会、メディア、国際、情報をキーワードに学際的な専門研究分野が置かれています。修士課程1年生は、研究計画をもとに、指導教員を決める必要があります。指導教員の指導のもとで、履修科目を決めていくことになります。

コミュニケーション研究分野でのカリキュラムモデルとして一例を下の表に示します。

このケースは、異文化コミュニケーションの指導教員のもと、近接領域を学び、修論を進めていこうとしているものです。個々の大学院生の学習ニーズに従って指導教員と相談しながら決めていきます。1年次には、基礎論の必須科目と、専門分野と近接領域の講義科目を中心に、2年次では指導教員の演習を中心にして修士論文の執筆をします。

現代文化基礎論	国際コミュニケーションワークショップI, II (必修) 文化動態論I エスニシティ論I	2単位X2 2単位 2単位
コミュニケーション論	1年次 異文化コミュニケーション論I、II 広告コミュニケーション論I、II マス・コミュニケーション論I、II 社会心理学特論 (対人行動) I (修士論文執筆要件として1年次取得単位数16単位)	2単位X2 2単位X2 2単位X2 2単位
	2年次 異文化コミュニケーション論I、II コミュニケーション研究演習 (文化と心理) I、II (修士課程修了要件として総取得単位数30単位)	2単位X2 2単位X2

また、修了のために必要な上記の単位修得に加え、研究分析能力や研究発表・議論の練習の場として、コミュニケーション研究分野にはコロキウムがあります。日程は、研究室掲示板やメーリングリストで通知されますので、積極的に参加してください。

地域文化論分野

地域文化論の分野では、日本、中国、朝鮮、アメリカの地域研究に関する授業科目が設置されています。地域研究においては、研究者の問題意識や研究対象とする地域によって、その問題意識や地域の事情に即した研究方法を模索するところから、研究が始まるといってもよいでしょう。地域文化論分野の授業科目を履修しながら、その地域についての理解を深めるとともに、他の研究分野（必要な場合は文学研究科）に設置された授業科目を履修して、自らの方法論を構築していく必要があります。

また、授業科目名の多くに「文化比較論」が冠せられているように、地域文化論分野においては、比較という視点も大切にされています。研究対象とする地域のほかに、いくつかの地域についても理解を深めておくといよいでしょう。

カリキュラムのモデルとして、例えば、「1940～50年代の東アジアにおける脱植民地化」を研究テーマとする場合、以下のような履修がありうるでしょう。授業科目の具体的な内容は年度によって異なりますので、事前に『履修便覧』やシラバスで確認する必要があります。以下はあくまでも一例です。

現代文化基礎論	国際コミュニケーションワークショップI, II (必修) エスニシティ論 I、II 現代文化基礎論演習 (国際関係の方法) I、II	2単位X2 2単位X2 2単位X2
地域文化論	1年次 文化比較論 (中国文化) I、II 文化比較論 (朝鮮文化) I、II 文化比較論 (アメリカ大衆文化) I、II	2単位X2 2単位X2 2単位X2
	2年次 文化比較論演習 (中国文化) I、II	2単位X2
他研究科(文学研究科史学専攻)	東アジア史研究	2単位

言語文化論分野

言語文化論の分野は、言語学、日本語学、英語学、応用言語学、日本語教育学、英語教育学、言語習得論、などの領域をカバーしています。

本領域に関わる教員を指導教員として選択した学生は、指導教員の演習と講義を中心に履修しますが、必修科目である国際コミュニケーションワークショップのほか、選択必修となっている研究分野の演習や講義も履修することになります。

研究テーマの決定や履修・研究の計画などに関しては、学生自身の自主性が求められます。言語文化論の分野では、研究テーマや分析の方法にはかなりの幅がありますが、下記の領域科目を適切に組み合わせながら学ぶことになります。

- 1) 自分の専攻する専門領域の基礎に関する領域
- 2) 自分が関心をもつテーマに関する領域
- 3) 自分の専攻と近接する領域

1年次には理論と方法論の講義科目を中心に、2年次には指導教員の演習を履修しながら修士論文を作成します。

資格取得について

現代文化研究科では、専門社会調査士、中学校・高等学校専修免許状「外国語（英語）」取得のための科目履修が、関連科目の開講されている研究分野に所属する学生だけでなく、原則として研究分野を越えて全体に開かれています（資格取得には学部科目の履修など条件があります）。また、大学への日本語教師応募、あるいは海外派遣応募に当たっては、修士課程修了が条件の一つになっている場合がほとんどです。

1) 専門社会調査士

社会調査に関わる専門家の育成を目的とした(社)社会調査協会が、大学院修士課程修了レベルの資格として、専門社会調査士資格をもうけています。詳しくは、URL <http://jasr.or.jp/index.html> を参照してください。詳細は、コミュニケーション学科研究室に相談してください。

2) 中学校・高等学校専修免許状「外国語（英語）」

「外国語（英語）」に係る中学校・高等学校教諭1種免許状授与の所要資格をすでに有していることが条件となります。そのうえで、本研究科の授業科目のうちから必修科目を含む24単位を取得する必要があります。詳細は、「大学院履修便覧」の「教育職員免許状の取得について」の該当ページをよく読んでください。

2. 研究計画書の作成について

修士課程での研究生活は研究計画書の作成から始まります。指導教員と相談の上、志願時の研究計画をもとに、1年間の研究生活の見通しを立てるためのものです。研究計画書に必要な項目は、研究目的、研究主題、研究方法、従来の研究との関連などです。それぞれを簡単に説明しておきます。

研究目的：何をどのように明らかにするのかが的確にわかるようにまとめます。

研究主題：研究テーマを一文で表す。初年度なので、研究の幅をもたせたテーマとするのがよいでしょう。

研究方法：質問紙、インタビュー、実験、内容分析、面接など、研究主題を解明するための適切な方法を示します。

従来の研究との関連：自分の研究テーマが、従来の研究と比べてどのような位置にあり、またどのような点が新しいのか、修士論文の先行研究レビューにもつながるものを整理して書きます。

これらをA4用紙に3-4枚程度にまとめてください。

研究計画書作成にあたって、下記のようなことが参考になるでしょう。

- 学部の卒業論文の見直し
学部卒論の再検討、発展の可能性の検討、あるいは実験・調査のやり直しの可能性の検討
- 過去の修士論文の題目紹介
過去の関連分野の修士論文やそれに準ずる論文の検討
- 研究方法の修得について
未履修の場合には、学部で開講されている研究法の聴講
専門社会調査士科目の履修、その他演習において、特異的な部分を指導教員から学ぶ
- 文献資料探索について
オンライン等での文献検索と文献入手の方法、引用の仕方、レビュー部分の書き方を学ぶ

3. 論文テーマの決定と修士論文計画書について

2年次になると、修士論文計画書を作成する必要があります。内容は、論文の構想（主構成、調査、実験の方法、文献）となります。構想を立てていくには、次のようなステップを考えるとよいでしょう。

- ・研究計画の時点で行ったレビューの再検討と文献研究
- ・それに基づく問題や動機の検討
- ・問題に接近する実証研究の方法の選択と学習
- ・実証研究に必要な資源集めの見通し
- ・予測される結果と考察の方向
- ・結果の新奇さや有用性の検討

論文の作成にあたっては、早い時期から論文のアウトライン（主要な論点を明示した論文の構成）や要旨案を作成し、修正を繰り返すことによって、自分の論考を整理していきましょう。

4. 修士論文中間報告または中間発表について

現代文化研究科では、修士論文執筆にあたり、中間報告が課されています。

コミュニケーション研究分野では、原則として、大学院コロキウムでの発表が求められています。論文の目的、方法、問題について、20分ほどでまとめ、議論することになります。他の研究分野もこれに準じて実施します。時期や方法など詳細については、各専門分野によって異なりますので指導教員とよく相談して下さい。

5. 修士論文について

修士論文及び修士論文要旨は以下の要領で執筆し、提出してください。以下、修士論文作成の一般的原則を記します。不明な点については指導教員に相談してください。

1) 内容と構成

修士論文は次のような構成と順序で作成します。

表紙・中表紙、目次、本文・注、引用文献、謝辞、資料、付録その他、要旨表紙、要旨本文

表紙と中表紙は本専攻の所定様式の表紙を使用します。

表紙、目次、本文、引用文献、要旨表紙、要旨本文は必須記載項目となっています。

注、謝辞・資料・付録その他の項目は必要がなければ省略できます。各指導教員の指導に従ってください。

引用の仕方、引用文献リスト作成方法は指導教員の指示に従い、必要な情報に漏れのないようにしましょう。特に、引用したものが剽窃とならないよう注のつけ方には十分な配慮が必要です。

修士論文は、本文の内容がどんなに優れていても形式に不備があれば減点されて低い評価しか得られないので注意しましょう。

要旨表紙と要旨本文は構成上は最後に付け、ページ番号については、要旨本文のみに別途1ページから付け、要旨表紙にはページ数を付けません。

2) 使用言語・書式など

修士論文の用紙は、A4版で用紙の片面に原則横書きとします。以下、本文、要旨などについて説明します。

a) 本文について

本文に使用できる言語は、原則として日本語または英語とします。

- ・和文 40,000字程度

縦書き/横書き等は指導教員の指導を受けてください。横書きの場合、横40字×縦30行（1枚当たり約1,200字）程度を目安とします。

- ・英文 50ページ程度（左右上下の余白は各2.5cm、12ポイント、ダブルスペース、字体はTimes New Roman）。詳細は指導教員の指導に従ってください。

b) 要旨

論文要旨は、日本語と外国語（外国語は原則英文）の両方を作成します。

- ・ワープロ等の使用を原則としますが、手書きも可とします。
- ・和文 1,200字
- ・英文 800語程度（左右上下の余白は各2.5cm、12ポイント、ダブルスペース、字体はTimes New Roman）。
- ・他の言語の場合はこれに準じます。
- ・外国語は、可能な限りネイティブチェックを事前に受けるようにしましょう。

c) 製本

修士論文は、必ず製本して3部（正本1、副本2）を提出する。

- ・くるみ製本。横とじ。
- ・保存に適さない感熱紙での提出をしない（感熱紙に一旦印刷した原稿も普通紙にコピーして提出するのは可）。

- ・簡易製本サービス「KINKO'S」を利用して各自製本してから提出する。
注)「KINKO'S」(24 時間営業の製本サービス会社) 以外で製本をする場合でも指定表紙と出来る限り似た色で印刷すること。
- ・表紙は「レザック 66」(グレー・ライトグレー) 又はこれらに準じた紙/色。
- ・表紙は文字がつぶれないように必ず滑らかな面にコピーする。
- ・表紙と中表紙は本専攻の所定様式の表紙を使用。
- ・表紙右上に枠囲みで正本、副本の区別を明記する。
- ・製本の見本はC 学科研究室にて閲覧できます。

d) 提出期限・提出先・その他

- ・提出部数 3 部 (正本 1、副本 2)
- ・提出受付期間
2011 年 1 月 14 日(金)～20 日(木) 午後 4 時(礼拝時間および 11:25～12:25 を除く)
- ・提出先 学務課
- ・口述試験 2 月上旬(試験日は期間内において指導教員が各々指定する)。
- ・問合せ：コミュニケーション学科研究室 d-comm-sec@ml.twcu.ac.jp

6. 論文審査基準および最終試験について

・論文審査基準

論文は、次のような点を基準として、学術論文としてふさわしいものかどうか厳格に審査されます。

- 1) 研究テーマの独創性、問題意識の明確さ
- 2) 研究テーマに沿った適切な資料及び方法論が採られているか
- 3) 論旨展開および文章表現が妥当か
- 4) 先行研究との関連の位置付けが明らかか

・最終試験について

最終試験は 2 月上旬に、公開形式の発表会として行われます。

試験日は、期間内において指導教員が各々指定します。

与えられた時間で、自らの研究発表を行い、主査・副査を中心に質疑応答がなされます。

・最終試験の評価基準

提出された論文および最終試験での発表や配布資料、質疑応答を、上記の論文審査基準に照らして、総合的に評価します。主査、副査から出された質疑に対して適切な応答がなされることが必要です。

以上
(2010/2/15 作成)